

あなたの農業経営をサポートします。

アグリいしかり

石狩市農業総合支援センター通信
第8号 2011年6月 発行



「ハマボウフウ」

昨年から取り組んでいる「新たなブランド化事業」として、試験圃場ハウス内で昨年播種したハマボウフウが収穫できました。その後JAいしかり地物市場「とれのさと」で販売されました。

- ・農業総合支援センター総会開催について
- ・GAP講習会開催について
- ・いしかり塾交流会開催について
- ・八幡小学校6年生の食育事業

いしかり塾交流会開催

4月1日(金)、いしかり塾による若手農業者の交流会が、つば八藤女子大前花川店で開催されました。昨年4月に開催されて今回で2回目。はじめに今年度のいしかり塾の活動内容について協議され、婚活バスツアー、大学等他団体との交流を図ることを中心とした活動とすることで承認されました。

打合せ終了後は懇親会が行われ、出席者全員が和やかな中、近況報告などを交わし楽しい時間を過ごしました。



懇親会の様子

八幡小学校6年生の食育事業

5月13日(金)、八幡小学校6年生の児童が食育授業の一環として、石狩産小麦「春よ恋」の栽培を行うため、小麦や栽培方法について支援センター職員より説明を受けました。「収穫した小麦でパンを作りたい。」と児童は熱心に耳を傾けていました。



農地情報

農業総合支援センターではワンストップ支援窓口業務として、農地の利用調整業務を行っています。農地の「貸したい借りたい」情報については農業総合支援センターまでご連絡ください。

石狩市農業総合支援センター

☎ (0133) 66-3345

<http://www.ishikari-asc.jp/>

農業総合支援センター総会開催

4月21日に平成23年度農業総合支援センターの総会が関係者出席のもと開催され、今年度の事業計画について次のとおり決定いたしました。

1. 担い手育成支援対策

■ 地域づくり事業

平成22年度に続き生振、高岡地区をモデル地域として位置付け将来を見据えた継続可能な「もうかる農業」を実践するため、その地域の進むべき方向を地域の農業者とともに検討し実践することを目的として、地域で抱える様々な課題と問題点を洗い直しその解決に向けて取り組んでいきます。

■ 後継者育成事業「いしかり塾」

地域農業後継者同士での意見交換会・現地研修会・簿記講習会・大学生との交流会などを開催いたします。また都市部に住む農業に関心のある独身女性と農業青年との婚活バスツアーを企画・実施し、活動を通して農業青年の連帯感を育み、農業に関する幅広い知識を身につけることなどを図っていきます。

■ 農用地利用調整事業

平成21年度より農業総合支援センターが農地の利用調整を行っていることから、今後石狩市や各関係機関の了解の基に「農地利用集積円滑化事業」の推進を担うとともに、耕作放棄地の未然防止と地域の活性化を図っていきます。

■ 新規就農者育成事業

新規就農希望者の窓口となり関係機関と連携し、受入に係る相談や専門家による経営指導等の支援を実施します。また新規就農者受入れ制度の再検討などを図っていきます。

■ 認定農業者制度に関する事務
経営改善計画書の取りまとめ事務、農業経営基盤強化準備金の申請等

2. 新たなブランド化事業

石狩地域の特性を生かし、クリーンで高収益な野菜を直売組合員と地域に普及させることを目的として試験栽培を実施します。

■ 新作物試験栽培（ハマボウフウ・チコリ・さつまいも・落花生・アイスパラント他）の取り組みをしていきます。

■ JAいしかり青年部と共同で平成23～24年の2カ年さつまいもの栽培試験を行い石狩に適した品種の比較の実証をいたします。

■ 6次産業化への取り組み

生産者、普及センターとタイアップして樽川直売所「とれのさと」農産物加工体験施設で、農作物から試作・販売を行い高付加価値商品の開発の検討を行います。

■ 各部会からの受託試験

人参部会・さやえんどう部会・ブロッコリー部会・Gアスパラ部会・大根部会・高岡施設園芸生産組合・青果課より

■ 栽培技術指導

技術指導員を1名配置して、試験圃場管理、JAいしかり青年部での栽培試験の指導にあたります。

3. 生産性の向上と安全・安心な農産物生産支援事業

■ 生産性の向上とJGAPなどの推進

■ 安全・安心な農産物生産の推進

■ 広報・宣伝活動

■ ホームページ

(<http://www.ishikari-asc.jp/>)

■ による紹介、アグリいしかりの発行

■ 地域特性推進事業

■ 厚田区、浜益区での事業を支援して

■ いきます。

6. JA北いしかりの構成団体としての組織再編に向けて検討していきます。



GAP講習会開催

3月18日、農業総合支援センター主催による「平成22年度土づくりセミナー『GAP講習会』」が開催され生産者、関係者等28名が出席されました。講師にはコープさっぽろ理化学担当マネージャー田端俊章氏、北海道GAP認証センター上級審査員澤井潤子氏の2名を招きセミナーが開演されました。

講演内容は、田端理化学担当マネージャーより「売る側からのGAP」と題し、農産物の栽培や出荷の各作業、場面を農業生産工程管理（GAP）としてとらえ、その工程毎に状況確認、点検を実施し管理を進めていく方法と説明し作業工程の管理項目を守ることで安全・安心を担保する規範の重要性と農薬使用方法（安全性は使用基準を遵守することで担保される）の遵守の重要性、農薬使用記録（安全な農産物であることの証明）の重要性、出荷記録（事故発生時に回収措置が容易）の重要性を強調し、生協コープGAPの取組み内容を講演しました。



田端理化学担当マネージャー

続いて、北海道GAP認証センター澤井上級審査員から「農場が取り組むGAPとは」と題し、世界が求める「持続可能な農業の実現」のため、生産者の立場から求められる「農産物の安全」「環境への配慮」「生産者の安全と福祉」などの説明とアジア（韓国・中国）でのGAP取組みの紹介をし、消費者が求める「安心な農産物・持続可能な農業の実現」により、強い産地確立を目指していただきたいと締め括りました。

セミナー修了後には営農企画課から「農作業安全啓蒙研修」として、乗用トラクターの事故に関する安全対策のポイントについて、啓蒙ビデオ「知っていますか？ 農業機械の安全装備」を鑑賞し、出席者全員で農作業での無事故を誓い合いました。



澤井上級審査員

